

地域再生計画（地方創生整備推進交付金）事後評価調書

都道府県名	長野県	事業実施主体	長野県、佐久市、小海町、佐久穂町	地域再生計画名	地域間連携による交流人口と定住人口創出のみち整備計画
計画期間	平成28年度～令和元年度	評価責任者	佐久市企画部企画課長 木内 孝昭		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標	基準値		中間目標値		最終目標値		事後評価	達成状況		最終目標値の実現状況に関する評価	
		基準年度		年度	中間実績	基準年度	最終実績		指標総数	達成数		
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標 1	地域全体における年間観光入込客数の増加	1,914,500人	H26	2,072,300人	H29	2,441,100人	2,080,000人	R1	2,678,400人	○	<p>令和元年東日本台風の影響による事業繰越はあったものの、地域活性化のための各種道路整備は完了し、当該整備の効果により最終目標値を達成することができた。今後も既存の観光資源と組み合わせ周遊性を高めることにより、地域全体の観光入込客数の更なる増加を目指していく。</p> <p>交流人口の創出面では大きな結果を残すことができたものの、定住人口の創出には結びついていない状況から、最終目標値に対し、△1,008人と下回る結果となった。しかし、コロナ禍における地方移住の機運の高まりもあることから、地域全体として移住・定住に向けた総合的かつ効果的な事業の推進により、今後も移住・定住人口の増加に努めていく。</p> <p>路網整備の促進により、最終目標値を上回ることができた。林道田口十石峠線の開設が完了し、森林認証によるカラマツを中心とした地域資源の循環利用を佐久地域において促進していることから、今後も数値の向上を図りたい。</p> <p>台風19号の影響により、売上を大きく落としたが、平成30年に中部横断自動車道の佐久南IC～八千穂高原IC間が開通したことにより以前より来客数が増え、目標値は何とか達成できた。今後、道路基盤が整備されてきたので、都市住民との交流に力を入れ、更なる売上アップを目指す。</p> <p>【対応する施設名：市道6-74号線（南北線）】 市道6-74号線（南北線）の道路改良を実施したことにより、県内で最も多くの観光客入込がある軽井沢町・御代田町との往来がしやすくなったため、最終目標値を上回ることができた。</p> <p>【対応する施設名：町道小倉原線、広域農道佐久南部地区】 平成29年9月に本線は開通して移動時間が短縮されるとともに、高速交通網と結ばれて地域内観光地へのアクセスが向上し、当地の魅力がアップした。 中間評価では、目標値を達成できず、中部横断自動車道の八千穂高原IC開通により、更なる数値の向上を目指していたが、台風19号による被災により、目標値を下回ってしまった。</p> <p>【対応する施設名：市道67-7号線（東西幹線）】 地域の東西を結ぶ道路ネットワークの整備により、農作物等の輸送の効率化が図られ、物流や地域間交通の活性化に繋がったが、目標値を下回る結果となった。 今後も、道路ネットワークを整備することにより、交流人口と定住人口の創出に努める。</p> <p>【対応する施設名：町道小倉原線、広域農道佐久南部地区】 平成29年9月に本線は開通して移動時間が短縮されるとともに、高速交通網との接続、国道141号に対するバイパス効果により利便性、防災面でも定住環境が向上し、当地の魅力がアップした。 中部横断自動車道が佐久南ICから八千穂高原IC間が開通し、町道小倉原線と広域農道が国道からのアクセス道路となり、利便性が上がった。別荘取引も活発となり、交流人口が増えたが、元々のオーナーが高齢となり、別荘を処分する動きがあったため現状維持となった。</p> <p>【対応する施設名：林道大河原線、林道田口十石峠線】 林道大河原線、林道田口十石峠線や作業道等の開設が進んだことにより、森林内の作業効率向上につながる林内路網密度の向上が順調に図られ、最終目標値を上回ることができた。</p> <p>【対応する施設名：町道小倉原線、広域農道佐久南部地区】 平成29年9月に本線は開通し、集出荷施設、幹線道路、高速交通網が結ばれるとともに移動時間の短縮が図られ、農業競争力が強化され、集客力がアップした。</p>
	指標 2	地域全体の定住人口の確保	115,324人	H27	114,502人	H29	114,378人	113,680人	R1	113,370人	△	
	指標 3	佐久市及び佐久穂町地域における搬出材積の増加	8,979m ³ /年	H26	9,087m ³ /年	H29	10,133m ³ /年	9,159m ³ /年	R1	60,240m ³ /年	○	
	指標 4	小海町地域の農産物加工直売所における農産物の年間販売額の増加	18,170千円	H26	19,000千円	H29	26,200千円	20,000千円	R1	22,000千円	○	
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標 1	平尾山公園（南北パラダ）の年間入込客数の増加	480,200人	H26	631,000人	H29	745,958人	631,200人	R1	655,157人	○	
	指標 2	小海町地域の年間観光入込客数の増加	205,100人	H26	210,100人	H29	194,200人	215,100人	R1	154,300人	△	
	指標 3	佐久市望月地区の人口減少の抑制	9,335人	H27	9,289人	H29	9,030人	9,242人	R1	8,774人	△	
	指標 4	星見ヶ丘別荘地の定住人口の増加	45人	H27	55人	H29	43人	65人	R1	45人	△	
	指標 5	佐久市及び佐久穂町地域の林内路網密度の向上	30.0m/ha	H26	30.4m/ha	H29	31.1m/ha	30.6m/ha	R1	31.4m/ha	○	
	指標 6	中部横断自動車道八千穂IC（仮称）～松原湖高原観光地の移動時間短縮	25分	H27	19分	H29	19分	19分	R1	19分	○	
③事業の進捗状況	事業名	整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価							
特別措置を適用して行う事業	市道整備事業（整備延長）	0.6km	0.2km	0.6km	【市道67-7号線（東西幹線）、市道6-74号線（南北線）】 ・東西幹線については、集落間、中心市街地へのアクセス向上及び長者原地区の高原野菜の輸送の効率化に寄与している。 ・南北線については、市町村間のアクセス性が向上することにより、交流人口・定住人口の創出につなげたい。							
	町道整備事業（整備延長）	0.7km	0.7km	0.7km	【町道小倉原線】 平成29年9月に本線は開通して移動時間が短縮されるとともに、高速交通網と結ばれて地域内観光地へのアクセスが向上したが、平成29年度の中間評価での小海町地域の年間観光入込客数は目標を達成できなかった。その後、平成30年4月の中部横断自動車道佐久南IC～八千穂高原IC間の開通により、ICから国道141号を経由した松原湖高原へのアクセス道路として利用されているため、今後の更なる観光客の誘客に努めたい。							
	林道整備事業（整備延長）	1.6km	0.6km	1.6km	【林道大河原線、林道田口十石峠線】 ・林道大河原線については、計画通りH29に完了済。林道整備により、林内路網密度の向上と搬出材積の増加が図られた。また、林道大河原線の開通は、ヒルクライム佐久（自転車ロードレース）の開催や森林認証など、観光・林業振興による地域活性化へも寄与している。							
	広域農道整備事業（整備延長）	0.4km	0.4km	0.4km	【広域農道佐久南部地区】 平成29年9月に本線は、開通LKPI◎は達成した。 計画区間は、平成30年度に付帯工を実施し完了した。今後は広域農道事業計画の未採択区間を再検討し、中部横断自動車道路や地域の道路ネットワークを活用し、交流人口・定住人口創出のための施策を推進することで、各指標の更なる向上に努めたい。							

その他の事業	温水利用型健康運動施設整備及び管理運営事業	「平尾温泉 みはらしの湯」の整備及び管理運営	「平尾温泉 みはらしの湯」は、年間20万人の入込を目標として平成28年12月に開業したが、平成29年は約21万6千人、平成30年度は約23万9千人、令和元年度は24万9千人と、当初の見込みよりも多く、また、年々増加傾向にある。引き続きスキー場、佐久平スマートIC等とのアクセス改善のための事業を進め、交流人口の創出につなげたい。
	星見ヶ丘別荘地分譲促進事業	星見ヶ丘別荘地の分譲	(一社)小海町開発公社と小海町が共同で首都圏や中京、関西エリアへのPR活動や空家バンクを利用し、別荘地の分譲と定住人口増加の促進を図ってきた。PRなどの効果で取引は活発となったが、元々のオーナーの高齢化により、別荘を処分する動きもあったため、現状維持となった。しかし併設するキャンプ場は、年々来場者が増え、賑わっている。
	森林環境保全対策事業	間伐等の森林整備（林野庁事業）	林道大河原線は国有林に面しており、平成28年度・平成29年度は実施していないが、平成30年度では間伐作業、令和元、2年度は皆伐採作業をそれぞれ実施している。最近では、JAXAの美笹深宇宙探査用地上局が整備され、見学者も多くいることから、林業のみならず観光業の振興など多分野にわたる産業振興を目指し、交流人口と定住人口の創出につなげたい。
	農産物加工・販売促進事業	「小海町農産物加工直売販売所」や「八峰の湯」における農産物の加工・販売	平成28年度に農産物加工直売所を改修したことにより、農産物の加工、販売が促進された。このタイミングに広域農道の開通、中部横断自動車道の佐久南IC～八千穂高原IC間が開通したことなどで直売所への来客数も増え、後押しとなった。現在の直売所の売上の中で加工品は、大きな位置を占めている。
計画外で独自に実施した事業	—	—	—
④評価方法	佐久市総合計画審議会において効果検証を実施		
⑤事後評価の公表方法	長野県、佐久市、小海町、佐久穂町のホームページにそれぞれ掲載		
⑥計画全体の総合評価	本地域再生計画では、市町道整備では自治体各所の道路改良により安心安全な道路環境の実現に寄与するとともに、林道整備では開設及び舗装改良を行うことにより搬出材積が増加し林業振興が図られ、農道整備では農産物流通の合理化が図られた。また、一部、令和元年東日本台風の影響による事故繰越があったものの、市町道、林道、農道の一体的整備によるネットワーク化が進んだことにより、地域全体における年間観光入込客数が増加したなど、事業効果はあったものと考えている。		
⑦今後の方針等	地域間ネットワーク整備による地域活性化については一定の効果があったと考えられるものの、数値目標2の定住人口は減少傾向が続いており、定住人口の確保が課題となっている。ハード事業と計画に記載されたソフト事業のみならず、様々な人口確保施策を組み合わせ、地域間ネットワーク整備の効果が一層図られるよう、今後も各種事業を進めていきたい。		